

## 2019 年度出前講座 第 2 期「静岡で知っておきたい地震と火山と防災」の報告

静岡県立大学グローバル地域センター地震予知部門では、「静岡で知っておきたい地震と火山と防災」と題して、下田と焼津で出前講座を行いました。第 2 期目となる今年度は、地域に合ったテーマを取り上げて身近な自然の尊さを再確認する一方、防災意識を高めて、防災行動へつなげるきっかけとする講座を目指しました。

今年度の初回として、2020 年 1 月 17 日(19:00-21:00)に、下田市民文化会館を会場とした出前講座を実施し、市民約 50 人が聴講しました(資料 1)。下田市の土屋 出 防災安全課長による開会挨拶で幕を開け、その後、二人の講師による講義が行われました。一人目は、静岡県立大学グローバル地域センター地震予知部門総括の楠城 一嘉 特任准教授で、「伊豆の自然を知り、地震を学び、防災を考える」と題して、火山によってできた伊豆半島の成り立ちや南海トラフ地震のメカニズムを解説しました。もう一人の講師である、静岡県立大学グローバル地域センター地震予知部門の鴨川 仁 特任准教授は、「伊豆の自然を知り、津波を学び、防災を考える」と題して、津波の予測や、津波から生じる電離圏の変動を検知する研究を解説しました。講義の後に、聴講者との質疑応答とアンケートを行い、「地震・津波のメカニズムが分かりやすい講座だった」といった意見や、「地震・津波に対する知識不足と自助の大切さを学んだ」といった意見がありました(資料 2)。

今年度の 2 回目として、2 月 6 日(19:00-20:30)に、焼津市の大井川公民館で出前講座を実施し、市民約 100 人が聴講しました(資料 1)。はじめに、静岡県危機管理部危機情報課防災啓発班(地震防災センター)の星 錦吾 班長から開会挨拶がありました。その後、静岡県立大学グローバル地域センター地震予知部門総括の楠城 一嘉 特任准教授により、「地震の基礎から、防災対応の最新動向まで焼津の地下で何が起きているかを学ぶ」と題して、地震学の基礎や防災の最新動向、本県の地盤特性について解説し、聴講者との質疑応答を行いました。アンケートも行い、「ハザードマップなどで、どういうところに住んでいるか知ることが大事とわかった」といった意見や、「皆に聞いてほしいが、もし高齢者の出席が多い講座を開催するならば、内容をより平易にした方が良い」といった意見がありました(資料 2)。なお、当日の司会は、静岡県立大学防災ボランティアクラブ防'z が行いました。防'z は、防災ボランティア活動の一環を紹介するブース

も作り、聴講者に活動を紹介して、大いに会場を盛り上げました。また、静岡新聞社・静岡放送は、同社の新聞紙面で取り上げた記事などを展示して、聴講者に対する防災啓発を支援しました。

今年度の3回目として、2月29日(14:00-16:30)に、浜松市にあるプレスタワーの静岡新聞ミーティングルームで出前講座を予定していましたが、新型コロナウイルスによる肺炎の拡大を受け、中止いたしました。講師として、尾池 和夫 先生(静岡県公立大学法人理事長、元京都大学総長)と、長尾 年恭 先生(東海大学海洋研究所所長・教授)を予定していましたが、

結果として、下田・焼津市民に対して、学術成果を分かりやすく還元するという本講座の目的を達成しつつ、防災啓発に一定程度の効果があったので、非常に盛会であったと考えています。なお、本出前講座に関する記事が静岡新聞(2019年12月29日、2020年1月15日、1月19日、2月4日)と広報やいづ(2020年1月1日)に掲載されています(資料3)。

地震予知部門は、今後も、防災意識を改めて高める機会として、静岡県の地震や火山を学ぶ出前講座を開催する予定です。特に、今年度中止となった浜松での出前講座を、来年度以降に開催したいと考えています。

おわりに、東海大学海洋研究所、静岡県地震防災センター、下田市、焼津市、静岡新聞社・静岡放送、静岡県立大学防災ボランティアクラブ防'z が、本出前講座を共催しました。また、尾池 和夫 先生、長尾 年恭 先生、鴨川 仁 先生には、講師を引き受けていただきました。この場を借りて感謝申し上げます。

文責：楠城 一嘉（静岡県立大学グローバル地域センター地震予知部門）

## 資料

資料1: 当日の風景

資料2: アンケート結果

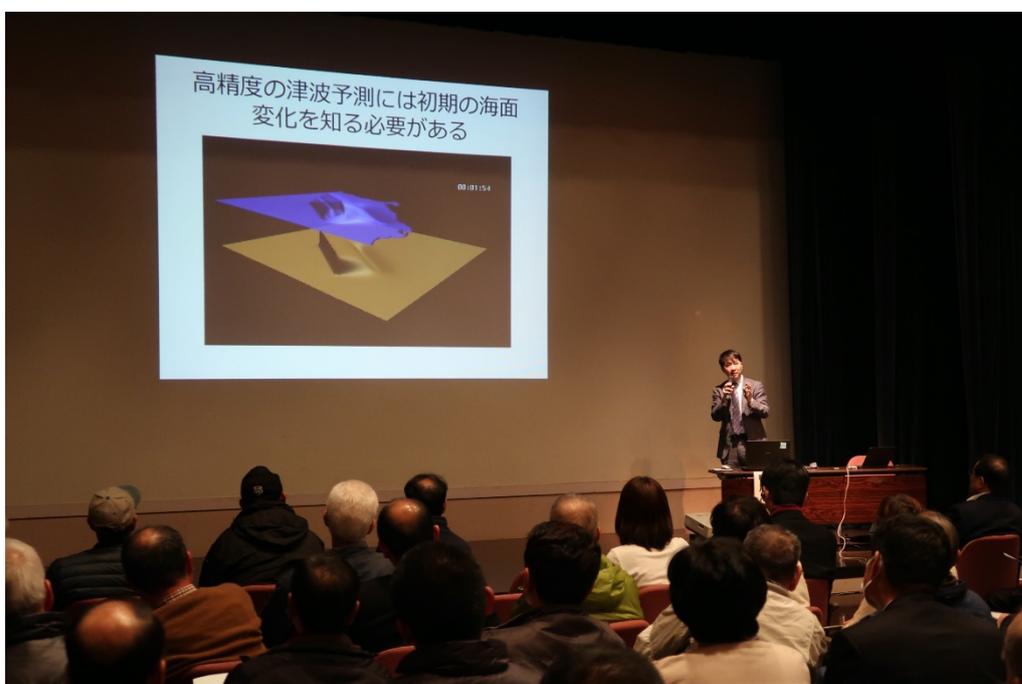
資料3: 出前講座の報道

## 資料 1: 当日の風景

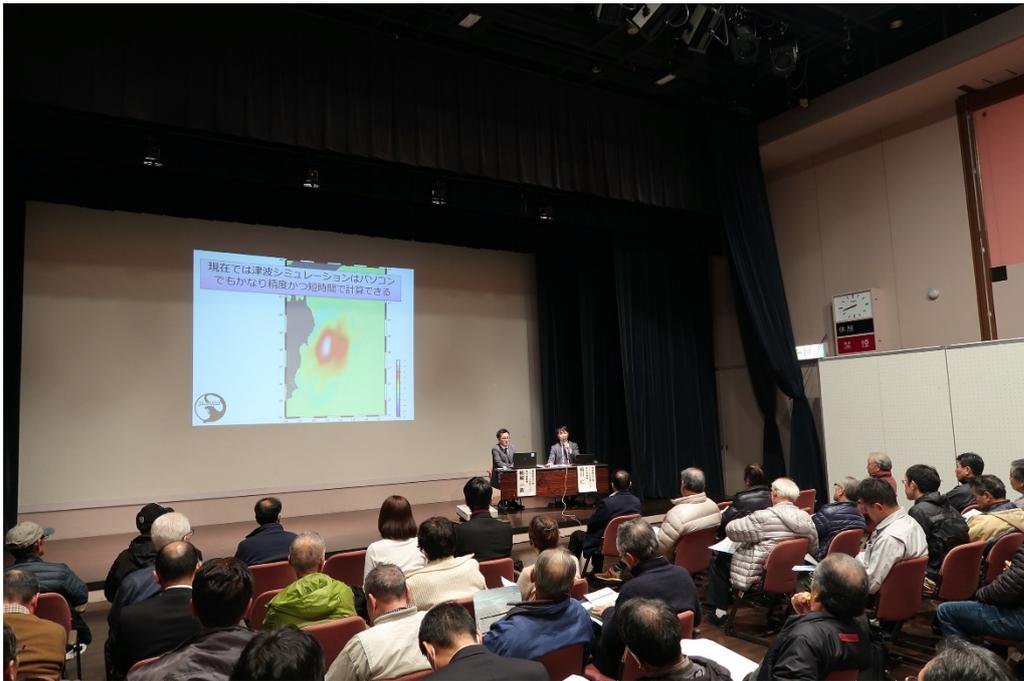
### 1. 下田会場



会場風景 1(楠城講師)



会場風景 2(鴨川講師)



会場風景 3(質疑応答)

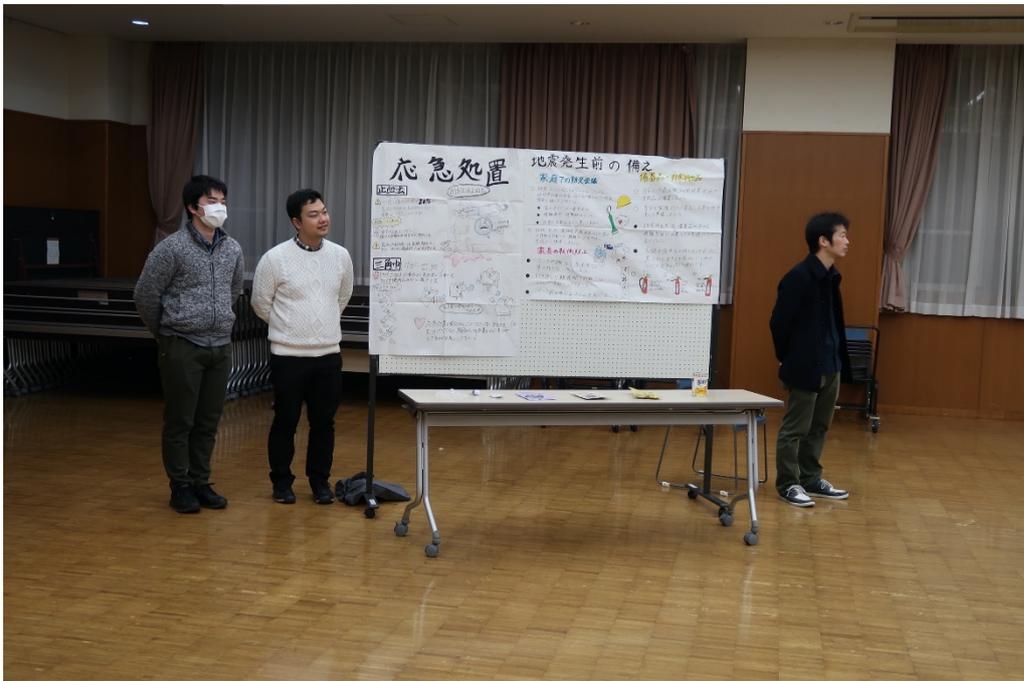
## 2. 焼津会場



会場風景 1(楠城講師)



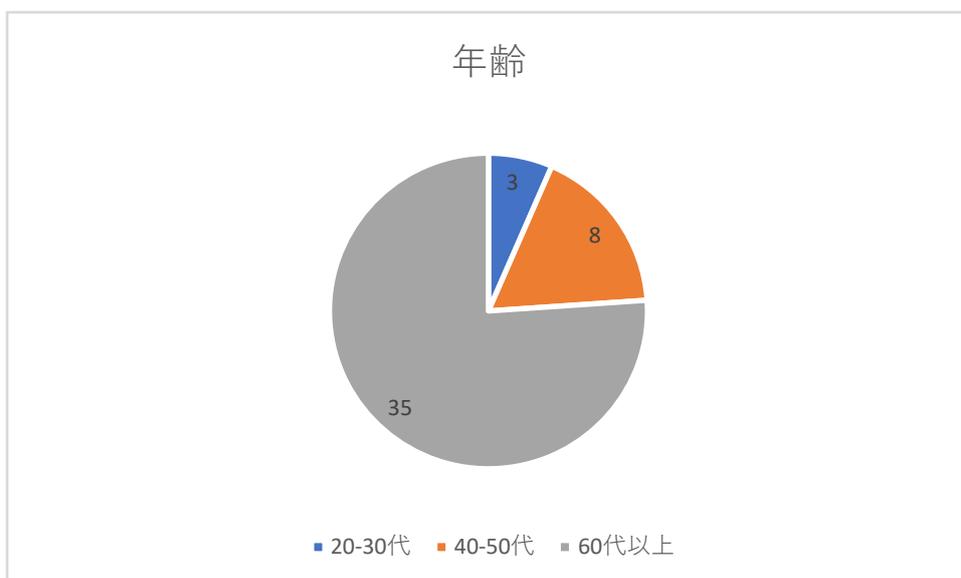
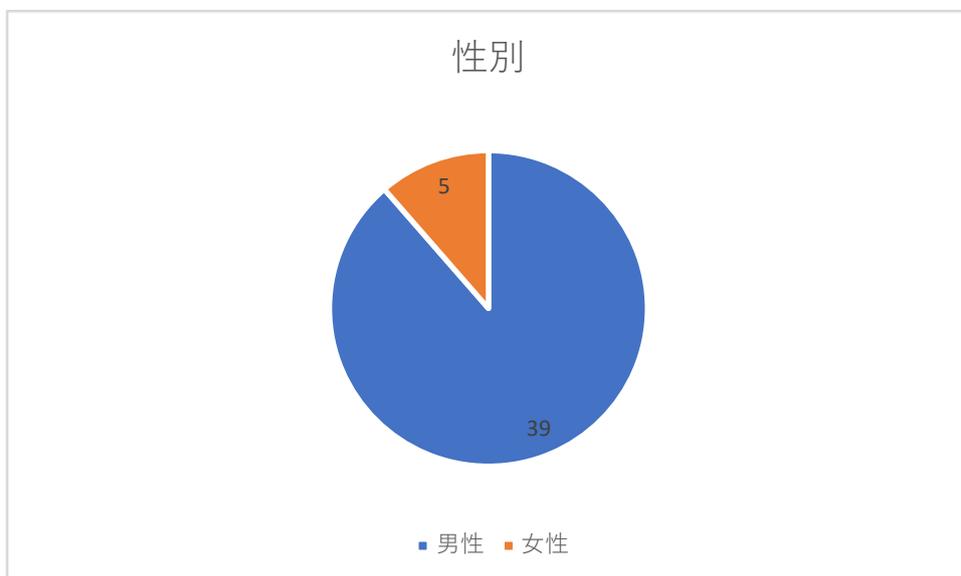
会場風景 2(質疑応答)

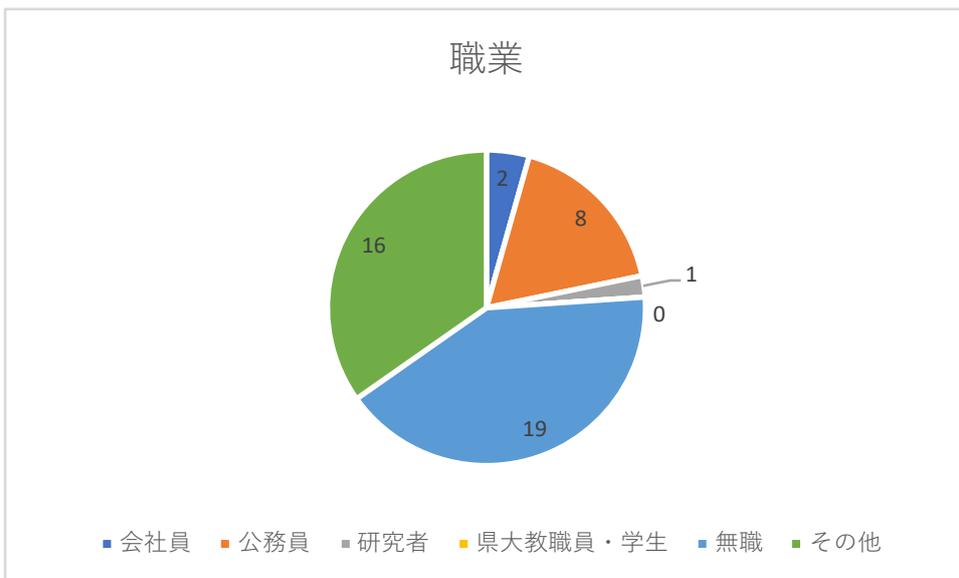


会場風景 3(静岡県立大学防災ボランティアクラブ防'zのブース)

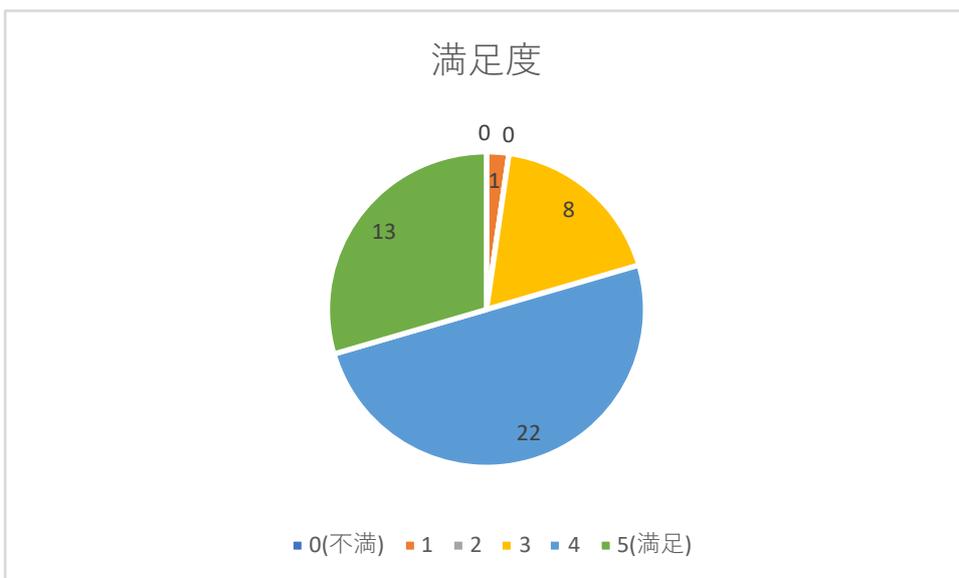
## 資料 2: アンケート結果

### 1. 下田会場(アンケート回答者: 46 名)

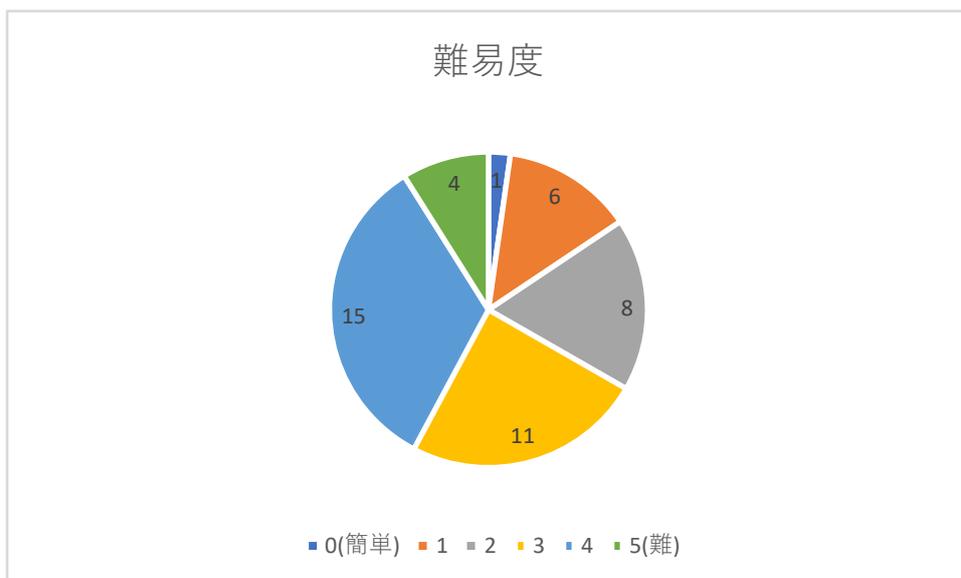




※“県大教職員・学生”を選んだ回答者が無し



※“0(不満)”と“2”を選んだ回答者が無し



もしあなたが、同僚や家族にどんな講座だったか尋ねられたならば、一言で何と説明しますか？

- ・ 地震津波のメカニズムがわかりやすい講座
- ・ 伊豆の地形と防災、南海トラフについての講座
- ・ 伊豆半島の成り立ちと津波予測の現状を学べる講義
- ・ 地震、津波の予知はムリ。逃げるしかない
- ・ いつ地震がおきてもおかしくないと言う
- ・ 今までにない具体的な説明を受けた
- ・ 伊豆半島の住民は活断層の中で住んでいる。異常が出たら前もって対応を
- ・ 伊豆の火山の歴史
- ・ 地震津波は自己判断
- ・ 津波の高さは、予想以上に大きい
- ・ 予測の技術は限界がある
- ・ 地震をめぐる科学の最前線を知る良い機会だった

地域の方々と防災意識を高める機会を作りたいと思いますか？本講座と類似の出前講座は有効と思いますか？本講座の改善点や、講座開催に際してどの様な支援があれば良いか等ご意見をお聞かせ下さい。

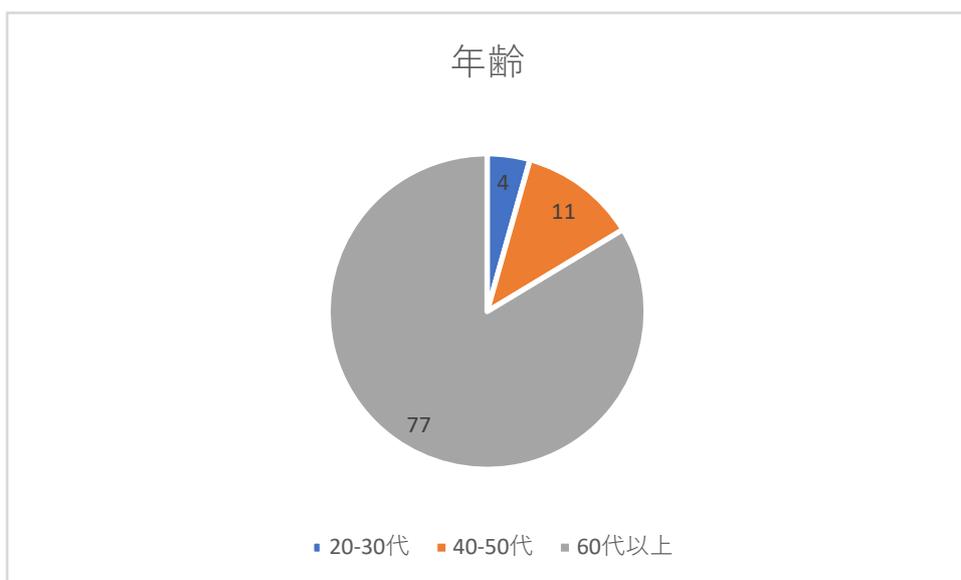
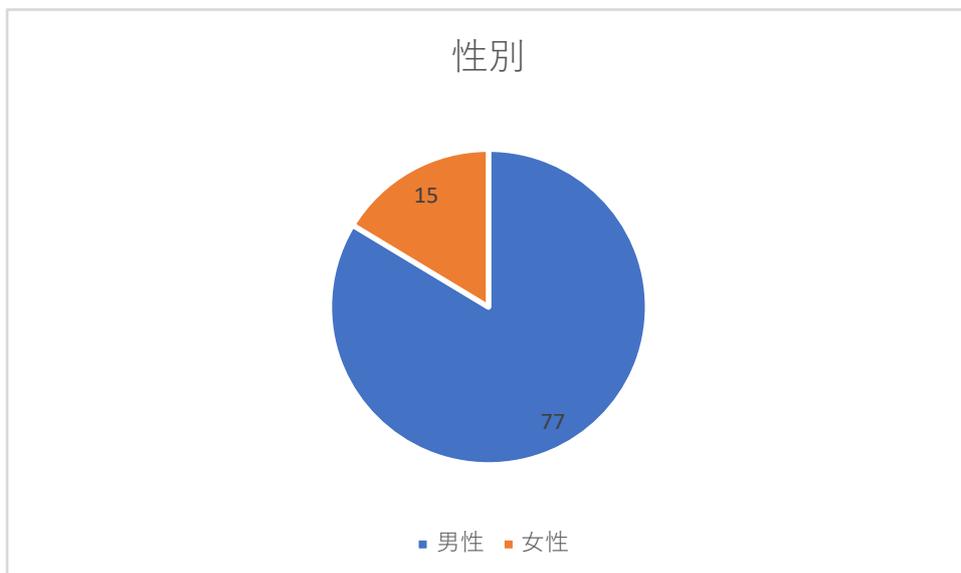
- ・ 地震津波に対する知識不足と危機感がとぼしい
- ・ 防災の基本は「自助」である。知識を身につけるのも「自助」であるから

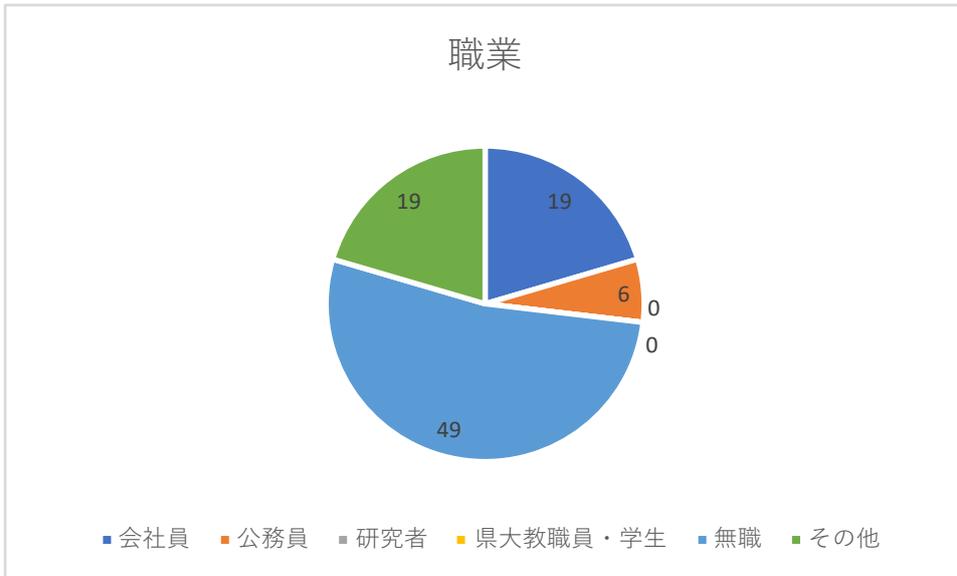
- ・関心をもっているものが少ない
- ・基本知識としての内容であって、具体的な防災には結びつきにくい
- ・現在でも予知はむずかしいからすぐに避難する
- ・やりたい。何回聞いてもいいと思う
- ・この様な講座を、住民1人1人が理解して、備えていかないと自主防災会のメンバーだけでは防災にならないと思う
- ・市民の意識を高める事が大切
- ・可能ではあると思うが若者は来ないだろう
- ・防災意識の向上が図れる
- ・出前講座の出席者が少ない
- ・もっと機会をとらえて行った方がよいが、無関心な人に勧めることは困難
- ・津波の予測が難しい現状から予知以上の考えをもち行動を起こすことが重要、命を守れることに繋がると考えられます（常に危機意識を持つこと）

その他、ご意見・ご感想などございましたらご記入下さい。

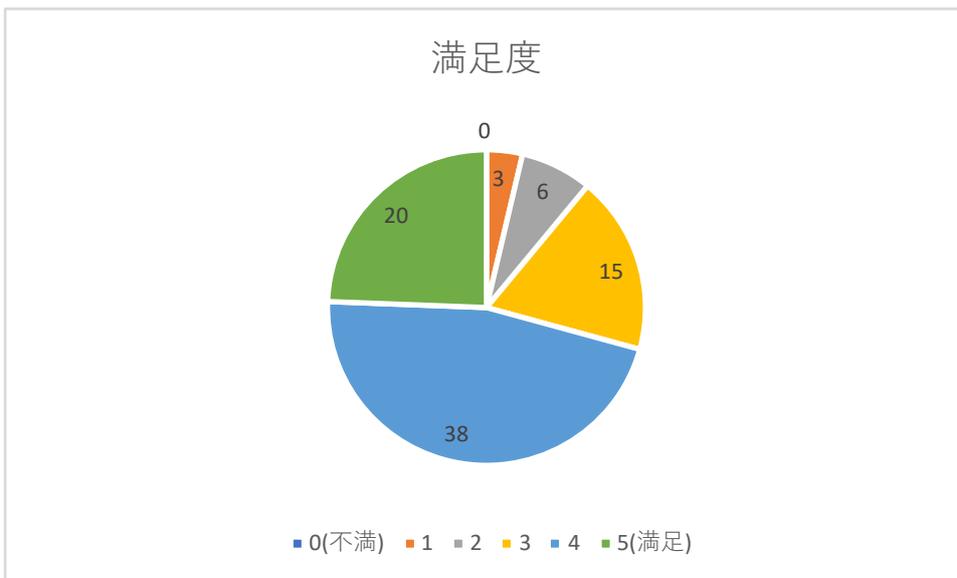
- ・実体験と研究成果を組み合わせた講義は必要です。途切れさせない方が良いでしょう
- ・机が欲しかった
- ・今回とても勉強になりました。市民全員で講座を受けるべきだと思います。講師の先生方ありがとうございました
- ・プレゼンのデータが貴重なもので興味を深められた
- ・両先生のお話はわかりやすかったので、頭の柔らかい子供たちに教えるのが効果があるのでは下田には大学がないので、何度も機会をつくっていただくとよろしいかと思えます
- ・算数も科学も苦手な私にもていねいに説明して下さいまして、ありがとうございます
- ・事に当たる準備をし、自分自身の命を守る
- ・この種の講座はシリーズで5~10回は必要と思う
- ・情報収集が重要と思うが、正確な情報発進が困難であるとすれば被害が大と考えて対応する必要があると考える

## 2. 焼津会場(アンケート回答者: 93 名)

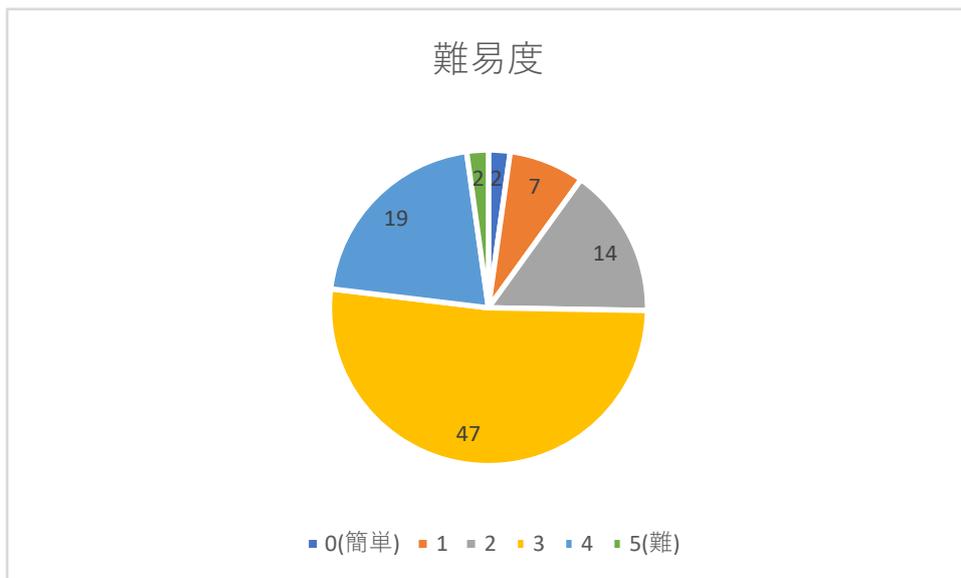




※“研究者”と“県大教職員・学生”を選んだ回答者が無し



※“0(不満)”を選んだ回答者が無し



もしあなたが、同僚や家族にどんな講座だったか尋ねられたならば、一言で何と説明しますか？

- ・ 焼津の地下では、南海トラフ地震の準備が着実に進んでいる事
- ・ 各自が知っていなくてはいけない事「臨時情報」についても分かり易く教えてもらいました。自助・共助の精神を持つ
- ・ 「ハザードマップの確認」が必要→自分がどういう所に住んでいるか知る事が大切
- ・ 必ずくる大地震の理屈を知って、一人一人がどう対応するかを考える内容
- ・ 予知は難しいとのこと
- ・ 地震がどうして発生するのかを説明する
- ・ 自分も講座に行くこと
- ・ 地元で地震が発生することを意識し、どう対応すべきかを考えておく参考になった
- ・ 大変解り易く聞けた。ハザードマップの見方を紹介
- ・ 予知はできない
- ・ 防災に関しては一般的な知識、但し臨時情報に関しては参考になった
- ・ 予知は難しいが観測網が充実し異常を確認することができるようになった
- ・ 自分が助かる事を最初に考える
- ・ 30年以内に南海トラフ地震は70～80%確率で絶対来る

地域の方々と防災意識を高める機会を作りたいと思いますか？本講座と類似の出前講座は有効と思いますか？本講座の改善点や、講座開催に際してどのような支援があれば良いか等ご意見をお聞かせ下さい。

- ・ 自主防災組織の充実化
- ・ 子供、孫たちの心がまえのためにもぜひ、親子講座もやって下さい
- ・ 講師との意見交換等もあると良い。地域の人達の考えも知る事ができる
- ・ 臨時情報発令後の対応についての講座開催を希望
- ・ 意識を薄めないことが大事。時々機会を作ってほしい
- ・ 講座を受ける地域の細かい情報を聞きたい。教えて欲しい
- ・ 避難所の運営方法 etc.を具体的に
- ・ いざというときの“具体的な行動”を現実的に教えてもらえるといいと思う。車での避難、歩行での避難など
- ・ 資料がカラーだと分かりやすいです（予算の都合はあると思いますが…）
- ・ 私の地域の住民は高齢者が多い為、レベルダウンして判りやすい講座をきかせたいと思います
- ・ 机があればメモが取りやすい。間隔が狭くスクリーンが見えない
- ・ 防災関係者だけでなく、学区単位、区単位でやっていただきたい
- ・ 大いに有効と思う。このような講座を町内会単位の小さなところでやってもらいたい
- ・ 具体的に地震がきたらどう行動すればいいか、地震がやんだ後どうすればいいかなども知りたい（当たり前のこと以外で、もっと詳しく）

その他、ご意見・ご感想などございましたらご記入下さい。

- ・ 生活の中で常に受け止めて準備する！地震と火山の関係とは？
- ・ 臨時情報が出たとき、具体的にどのような対応をとったらいいのか
- ・ 音響が悪い 会場が寒い
- ・ 自助、共助の意識を持つため、防災訓練の内容も見直す必要がある
- ・ アカデミズムの方から市民の方に出向いていただく取組は素晴らしいと思います
- ・ 防災リーダー会議を修了しても1回で終わってすぐ忘れてしまう為、リーダー会議修了者だけでも何回もくりかえしお願いします
- ・ 子供も参加できたら良いなと思います

- ・動画を併用できればわかりやすいと思う
- ・参加者に高齢者が多く、共助に必要な若者の参加を増やす必要を感じます
- ・過去焼津がどのくらいの被害があったか知りたいです（大昔も）
- ・楠城先生、語尾をもう少しはっきり、もう少しゆっくりお願いします。説明はわかりやすかったです
- ・1人1人の自覚が「生きる」ことにつながると思います
- ・県のホームページを参考にし、地域に活用したい

### 資料 3: 出前講座の報道

1. 2019 年 12 月 29 日, 静岡新聞, INFORMATION 2019 年度出前講座 ～第 2 期～ 静岡で知っておきたい地震と火山と防災, <http://www.at-s.com/teambuddy/kiji/kiji50.html>
2. 2020 年 1 月 1 日, 防災講座参加者募集, 広報やいづ 2020 年 1 月 1 日号, <https://www.city.yaizu.lg.jp/koho/2020/0101.html>
3. 2020 年 1 月 15 日, 静岡新聞, 地震と火山と防災を学ぼう 17 日下田で講座
4. 2020 年 1 月 19 日, 静岡新聞, 地震、津波の予測解説 下田で連続講座の初回 県立大特任准教授講演
5. 2020 年 2 月 4 日, 静岡新聞, 静岡における防災 県立大准教授講演 6 日、焼津